

平成29年度第2回小牧市障害者自立支援協議会会議録

1 開催日時 平成29年10月13日(金) 午後1時30分～2時30分

2 開催場所 小牧市ふれあいセンター 3階大会議室

3 出席者(委員13名のうち、12名出席)

(会長)	相山女学園大学 准教授	手嶋 雅史
(副会長)	小牧市社会福祉協議会会長	稲垣 喜久治
(出席した委員)	小牧市身体障害者福祉協会会長	谷 幸男
	小牧市手をつなぐ育成会会長	石原 多加子
	民生委員・児童委員連絡協議会会長	吉田 友仁
	社会福祉法人大和社会福祉事業振興会 ハートランド小牧の杜施設長	清水 龍司
	社会福祉法人あいち清光会 サンフレンド施設長	川崎 純夫
	社会福祉法人アザレア福祉会 理事長	北澤 論
	小牧市医師会代表	越後谷 雅代
	愛知県春日井保健所 課長補佐	角田 玉青
	愛知県立小牧特別支援学校校長	鵜野 裕志
	春日井公共職業安定所 専門援助部門統括職業指導官	川島 さとみ
	小牧市健康福祉部長寿・障がい福祉課長	山本 格史
(欠席した委員)	小牧市社会福祉協議会会長	稲垣 喜久治
(オブザーバー)	尾張北部圏域地域アドバイザー	綱川 克宣
(事務局)	小牧市健康福祉部長寿・障がい福祉課 小牧市社会福祉協議会ふれあい総合相談支援センター	
(同席)	就労支援連絡会代表 本庄授産所	伊藤 茂
	日中活動系連絡会代表	
	生活介護ぽぽらす	秋山 敏之
	相談支援事業所連絡会代表	
	サンビレッジ障害者生活支援センター	篠塚 ユカリ

こども連絡会代表

小牧市ふれあいの家	あさひ学園	御手洗 真由美
相談支援事業ハートランド小牧の杜		木戸 明子
サンフレンド障害者生活支援センター		中野 勝利
地域活動支援センター本庄プラザ		水谷 研司

(傍聴者) 1名

#### 4 議事

- (1) 尾張北部圏域地域アドバイザーから情報提供
- (2) 相談支援事業の実績報告
- (3) 平成29年度事業計画進捗状況について

#### 5 その他

就労支援連絡会から一般就労に関するアンケート報告

#### 6 会議資料

次第

小牧市障害者自立支援協議会委員名簿

小牧市障害者自立支援協議会組織図

P 1 尾張北部圏域地域アドバイザー報告

P 2～3 一般相談支援事業について

P 4～9 各連絡会事業計画進捗状況

P 10 事業進捗状況及び今後の予定

P 11 その他の事業進捗状況

P 12～13 居宅介護、訪問看護・リハビリ事業所との意見交換まとめ

P 14～18 一般就労に関するアンケート (集計結果)

#### 7 議事内容

(事務局) 只今より、平成29年度第2回会小牧市障害者自立支援協議会を開催します。この会は公開とさせていただきます。議事録は情報公開コーナー及び小牧市のホームページに掲載させていただきます。本日の傍聴人は1名です。また、小牧市社会福協議会会長、稲垣喜久治は所要により欠席とさせていただきます。開会に先立ちまして、今年度より小牧市社会福祉協議会の事務局長、松岡を紹介いたします。(あいさつ: 皆さんこんにちは。今年の4月から事務局長を拝命しました松岡と申します。今後ともよろしく願います。) 資料は事前に

送付させていただいております。ここからの議事は、手嶋会長よろしく申し上げます。

(手嶋会長) 皆さんこんにちは。今日が今年度第2回目の協議会です。始めに、尾張北部圏域地域アドバイザー綱川さんからの情報提供をお願いします。

(綱川アドバイザー) P1の資料をご覧ください。今年度の障害者相談支援アドバイザー会議で検討、報告されたことを中心に報告します。まず、重点項目の1点目、基幹相談支援センターと地域アドバイザー業務の連携の在り方についてです。これは、基幹相談支援センターとアドバイザーの業務が一部重複するのではないかということから検討されることになりました。アドバイザーの業務のひとつに市町を繋ぐという役割があるとの意見があり、愛知県が実施した調査でも、尾張北部圏域においては連携の強化を図るべきという結果が出ました。更なる連携強化に向けて業務を検討していきますので、皆さんからのご意見もよろしく申し上げます。一方で、地域包括ケアシステムが整備されていく中で、基幹相談支援センターの立ち位置について検討している市町もありました。サービス等利用計画の作成もひと段落し改めて基幹相談支援センターの役割を考える時期に来ていると思われれます。小牧市も基幹相談支援センターはありませんが、基幹相談支援センターを設置することが目的ではなく、センターの役割を地域の中でどう担うかが重要という発言がありました。小牧市にある委託相談支援事業所や自立支援協議会、各連絡会をどう活用していくか、今後検討していく必要があるのではないかと思います。2点目、多圏域での検討事項です。医療的ケアが必要な方の支援について議論している市町が複数ありました。国の施策としても医療的ケアに力を入れています。医療的ケアを提供している事業所がノウハウを提供しようとする動きもあります。最後に、就労継続支援A型事業所を取り巻く事情についてです。新聞報道などでもありますが、愛知県内でも就労継続支援A型事業所が閉鎖に至り雇用されていた障がい者の行き先がなくなってしまうという出来事がありました。最近ではA型事業所の運営が厳正化されています。閉鎖に至らないまでも何か動きがあるのではないかと他の地域アドバイザーに確認したところ、雇用時間数や雇用日数の減少、雇用契約を終了するという案件も出ているようでした。雇用契約の終了は解雇ではないので、雇用保険の失業等給付をもらうまでに時間を要するため支障が出ているようです。内職作業を行っている事業所の運営は難しく、施設外就労としてホテルの掃除やレストランの経営など付加価値の高い事業を行っている事業所が安定して運営できているという印象を持ちました。これに伴って、A型事業所を訪問しヒアリングを行っている市町もあります。小牧市はA型事

業所が多い市になると思います。今後も事業所の動向を見守り雇用されている障がい者が困らないよう、A型事業所がしっかりと運営できるようなサポートが必要になると思います。以上です。

(手嶋会長) ありがとうございます。小牧市は基幹相談支援センターを設置していませんが、相談支援はうまく整備されているかなと思います。その辺りも含めて、議題1の相談支援事業の実績報告を長寿・障がい福祉課からお願いします。質問は議題2まで終了してから受け付けたいと思います。

(長寿・障がい福祉課) (P2資料のとおり)

一般相談支援事業について報告します。まず、小牧市の相談支援事業は4法人5事業所に委託して実施しており、集計については、法人ごとの集計になっています。P2をご覧ください。相談人数の合計は5か月間の合計で、障がい児111名、障がい者839名。特徴は、障がい児の障がい種別では知的障がい者が最も多く、障がい者では精神障がいの方からの相談が最も多くなっています。人数の傾向は過去とほぼ同じです。支援件数の合計は4,343件で、電話相談が最も多く、次に多いのが関係機関との連絡調整です。支援内容では、一番多い相談が福祉サービスの利用等に関する支援で、次に多いのが不安の解消や情緒安定に関する支援です。本庄プラザは精神障がいに特化した相談機関になるので、この支援内容が多くなっています。次に多いのが、健康医療に関する支援となっています。支援方法と支援内容については過去と同じような傾向になっています。P3をご覧ください。5か月間の相談の特色や傾向についての各法人からの報告です。時間の関係もありますので、特徴のあるものをいくつか報告します。ハートランド小牧の杜からは、親の病気や高齢化から在宅生活が困難になり入所を希望されるケースが増えているということで、親亡き後の問題が発生していることが読み取れます。サンフレンドからは、生活の場、施設入所支援、共同生活援助(グループホーム)に関する相談が多かったということで、これも在宅生活が難しくなりサービスでの支援を希望する相談が多いという傾向が挙げられています。本庄プラザからは、一人暮らしの方の不安を解消するための電話が多いということです。ふれあい総合相談支援センターからは、精神病院に入院している知的障がい者の退院先を市内外で探しているが見つからない、また施設入所かグループホームかの判断に苦慮するケースが増えているという報告があります。市役所にも最近、入所が必要になったにも関わらず入所先がないという事業所からの相談を非常に多く受けます。国としては施設や病院から地域へ移行するという大きな流れがありますが、現場では、入所の希望も多く、この流れとのギャップがあるということを委員の皆様には

ご認識いただければと思います。以上です。

(手嶋会長) ありがとうございます。今の報告は平成29年4月から8月までのものです。前回のデータと比較すると、障がい児の人数には大きな変化はありませんが、障がい者の人数は17%増となっています。権利擁護に関することや個別支援会議の調整という必要な役割についても前回のデータと比べると、個別支援会議の調整は64%増、権利擁護支援は54%増と、どちらも増えていますので、昨年度よりも充実していると言えるのではないかと思います。続きまして、各連絡会の中間報告を各連絡代表と事務局からお願いします。

(就労支援連絡会代表) (P4～P6資料のとおり)

上半期の報告をします。①一般企業への就労移行と定着に関しては、小牧と春日井の連絡会と就業・生活支援センターようわが連携し企業見学会を実施しました。②情報発信では、「働くガイドブック」を小牧市と小牧市社会福祉協議会のホームページに掲載しました。商工会議所のメールマガジンに添付し会員に配布することができました。ガイドブックは各事業所が独自に活用しており、内容の更新は年に1回行います。A型事業所の状況については、経営者が変わり引き続き事業を継続している事業所が1か所あります。③受注の増加に関しては、昨年の尾張北部圏域障害者雇用推進セミナーへの参加や働くガイドブックにより、企業への就労や企業からの仕事の受注が増えました。就労移行では、就業・生活支援センターようわと連携し特例子会社を設置する小牧市企業による求人情報説明会を実施し、採用面接を経て11月に実習を行う段階に来てしていると聞いています。雇用推進セミナーへは今年度も参加予定です。④就労を継続するための支援については、就労継続支援A型事業所や就労継続支援B型事業所の各事業所の課題を出し合い情報共有し方策を検討したいと考えています。市内の就労継続支援A型事業所が閉鎖するという情報は聞いていません。また、こども連絡会との情報交換会を11月に行う予定です。日中活動系連絡会と合同での特別支援学校との情報交換会は、今年の秋の実習の結果、進路未確定の生徒がいれば12月に実施する予定です。平成30年度卒業生の進路確保を目的とし、また今後就労移行支援でのアセスメントの方法が変わるということで、年明けにも情報交換会を開催する必要があると思います。状況により今年度中に1回から2回開催するという予定になっています。以上です。

(日中活動系連絡会代表) (P6資料のとおり)

①前年度に作成した備蓄品リスト表を活用できるものにするため事業所の連携強化を目標に事業所見学会を実施しました。職員同士で情報交換ができました

た。②利用者や家族の高齢化に対応するため高齢者の利用できるサービス等を学ぶための研修会を実施し、介護保険制度について学びました。介護保険制度にない障がい福祉制度は65歳になっても利用継続できることを学びました。また、資料にはありませんが、今年度当初アンケートを行いその中から職員の人材不足や資質の向上に関する課題が上がりました。来年度5月か6月に就職フェアを行う予定で作業部会を立ち上げました。以上です。

(相談支援事業所連絡会代表) (P7資料のとおり)

今年度は①②相談員の質の向上とスーパーバイズできる相談員の養成を目指し、7月11日に半田市の事例検討の手法を学びに行きました。その後、7月31日に実際の困難事例を用い、小牧市において事例検討会を行いました。今後回数を重ね困難事例を全体で考えていく仕組みを作っていきたいと思えます。事例提供やファシリテーター役を経験することでアドバイザー力やマネジメント力をつけるようにしていきたいと思えます。③相談員の横の繋がりを密にしていくため、5月18日に「計画相談について」というテーマでグループワークを行いました。グループワークを通して相談員一人一人がこれまで作成した計画を再度見直す機会になりました。改めてアセスメントをしっかりと行う必要性やご本人の思いに寄り添った内容になっているか、適した支給量で作成できているか、インフォーマルな支援も取り込んだ計画作りとなっているか等、各自再確認できたと思えます。後期に行いたいこととしては、小牧市の課題の吸い上げがまだ不十分ですので、その道筋作りを行っていききたいと思えます。そのためには事例検討会を通じて見えてきた課題を含め、それ以外の個別のケースからも課題をしっかりと集積、整理して、共通する課題等を連絡会で共有し課題解決に繋がるような検討をしていききたいと思えます。以上です。

(こども連絡会代表) (P7～9資料のとおり)

乳幼児分野では、成長記録ノートの個人情報の取り扱いを注意していくことを共有し、今後学校にも繋がっていくと良いという意見が出ています。自傷他害のあるお子さんへの対応についての具体的な検討を行っていますが、障害児等地域療育支援事業を活用しながら、11月には放課後等デイサービスからの事例検討会も行う予定です。小学生分野では、障がいのはっきりしないお子さんが多いことから、グレーな子への対応を含む研修会を行う予定とし、10月24日に児童館や児童クラブへも呼びかけ発達障がいの疑似体験研修会を予定しています。また、障害児等地域療育支援事業を活用した発達障がいに関する研修会には児童クラブの職員が多数参加していただきました。3月8日には本会の委員でもある小木こどもファミリークリニックの越後谷先生に発達障がい

に関する講義をお願いしています。昨年度からの地域の小学校との繋がりを作ろうという課題に対しては、特別支援コーディネーターの先生をお招きしライフステージごとの支援機関の役割について意見交換を行いました。中高生分野では、昨年度支援者向けに行った「性に関する研修会」を12月2日に保護者向けに行います。また、高等部卒業後の繋がりについて知るため11月28日に就労支援連絡会から卒業後に利用する事業所を招き勉強する予定です。療育サポートガイドやデイサービス事業所のガイドブックは今後作成していきたいと考えています。以上です。

(事務局) その他の事業について説明します。P10をご覧ください。今年度行った事業の実施日と今後行う予定です。P11をご覧ください。訪問看護・訪問リハビリ事業所と居宅介護事業所との意見交換会を8月3日に行い35名が参加しました。詳しい内容はP12、13の通りです。意見交換のまとめから主なものをお伝えします。居宅介護事業所からは相談支援専門員の必要性について意見がありました。セルフプランの方の対応に困っているという意見もありました。訪問看護・訪問リハビリ事業所からも同じ意見があり、相談支援専門員が利用者と事業所を繋ぐパイプ役だという意見がありました。訪問看護事業所からは介護保険制度との違いについても意見があり、支援者同士がお互い顔の見える関係であることが大切という意見がありました。相談支援事業所からは相談員が不足しているという意見があり、行政からは相談支援専門員とケアマネジャーがお互い学び合い連携することが必要という意見がありました。以上です。

(手嶋会長) 議題1と2を合わせてご意見ご質問がありましたらよろしくお願ひします。時間の都合上お一人お一人お聞きしたいところですが、ご意見のある方お願ひします。

(川島委員) P2一般相談支援事業についての障がい種別「重心」とはどういう意味ですか。また障がい児は何歳までですか。

(長寿・障がい福祉) 重症心身障害者・児のことで、医療的ケア等が必要な重度の障がい者・児のことを言います。また、18歳未満を障がい児、18歳以上を障がい者としています。

(手嶋会長) 他にご意見はありませんか。川崎委員いかがでしょうか。

(川崎委員) 日中活動系連絡会で計画している就職フェアについてですが、障がい者施設だけではなく高齢者施設も一緒に行うと多くの人が集まると思います。数年前に小牧で行っていた就職フェアにはたくさんの方が来ていました。私どもは名古屋のフェアにも行きますが、やはり小牧の人は少ないので尾張地区で開催することで就職に繋がるのではないかと思いますので、是非実現していただけると良いと思います。

(手嶋会長) 他にありませんか。私から事務局にお願いします。P10の予定表ですが、それぞれの連絡会の報告の中で計画以外にも実施しているものもありましたので、入れていただけると見やすいと思います。

(事務局) 分かりました。ありがとうございます。

(手嶋会長) こども連絡会もいろいろ取り組んでいただいています。越後谷委員からはいかがでしょうか。講演会をお願いしていますが。

(越後谷委員) 学校の先生との連絡会もありますが、お母さん達は中学や高校卒業後の進路について知らないこともあると思いますので、進路の情報を含めていろいろ連携していただけるとありがたいと思いますのでよろしくお願いします。

(事務局) ありがとうございます。

(手嶋会長) P2の相談支援のデータを見れば見るほど相談支援の方は昨年度に比べて劇的に相談件数が増えていますのでかなり忙しくなっていると思います。事業所が1か所増えたことと思いますがかなり件数が増えています。障がい児の相談人数は変わらなくても保育・教育に関する相談が100%増しです。一人一人に寄り添う時間もかなり長く取っているのではと想像します。

報告は全て終わりました。その他に移り、一般就労に関するアンケートの報告をお願いします。

(就労支援連絡会代表) P14からをご覧ください。これは就労支援連絡会が設置された平成27年度と28年度に実施し、今後毎年度ごとに実施し実績を確認していきます。平成23年から27年度は現在のサービス体系に移行したため平成23年からの合計になっています。平成27年度末と平成28年度末の時点で比較すると、B型事業所が1か所、就労移行支援事業所が1か所増え

ました。一般就労した利用者は23年から27年の5年間で32人に対し28年度は1年間で19人。単年度比率で考えると3倍になりました。障がい種別では発達障がいを含めて精神障がいの方が多く占めています。就労継続支援事業所利用以前の生活については、自宅、A型事業所、一般就労となっており、A型事業所では最低賃金が得られるため再就労を望んでA型に就職されたと思いますし、そこからの支援を受けることで意識、意欲、自信が回復され一般就労に向かうことができるのではないかと思います。就労形態では、アルバイトは身分の保証の面で不安があります。障がいの公表については、90%が公表し一般就労していますが、否とした方が就労継続しているかの追跡や、否としたため退職となったかなどの関係性の検証も必要になってくると思います。就労先をどうやって探したかについては事業所の職員やハローワークが多く、自分で探したという人もいますのでどうやって探したかの検証も必要があるのか。自法人への就職という結果もありましたので、今後事業所の規模が大きくなれば障害者枠での採用ができるか等を検討する必要があるかと思います。一般就労を目指している利用者については、A型事業所についてはほぼ本人の希望ですが、B型利用の知的障がい者については、本人や親の希望に対しての事業所の後押しが大きいと思います。以上です。

(手嶋会長) 質問がありましたらお願いします。ないようですので、アンケートについては終わります。事務局から次回開催についてお願いします。

(事務局) 次回は、平成30年2月19日(月)午後2時から、ふれあいセンターにて開催します。

(手嶋会長) 限られた時間、御協力いただきありがとうございました。それでは本日の議事は終了とさせていただきます。

(事務局) ありがとうございました。計画未消化の事業につきましては、順次進めて参りたいと思いますので、2月の第3回協議会の折には年度のまとめとして報告させていただきます。またご意見をよろしくお願いします。本日はご審議いただきありがとうございました。